

事案名	富津沖の事案（千葉県12-3）
分類	廃棄・遺棄 発見・被災・掃海等処理 現在の状況
資料	<ul style="list-style-type: none"> ・「富津沖合緊急掃海事業報告書」昭和51年1月〔1〕 ・『毎日新聞』昭和50年10月17日〔2〕 ・『朝日新聞』昭和50年10月18日〔3〕 ・「東京湾富津沖合における毒ガス弾等の処理について（報告）」昭和50年12月22日〔4〕 ・『朝日新聞』夕刊昭和50年11月12日〔5〕 ・『朝日新聞』夕刊昭和50年11月14日〔6〕 ・『千葉日報』昭和50年11月15日〔7〕 ・『朝日新聞』夕刊昭和50年11月15日〔8〕 ・『千葉日報』昭和50年11月16日〔9〕 ・「イペリット爆弾引揚状況一覧表」〔10〕 ・「浦賀水道航路No.4浮標付近にて発見された爆発物の調査処分について（横処分28号55.7.12）」〔11〕 ・「『旧軍毒ガス弾等のフォローアップ調査について』」平成15年10月9日〔12〕 ・化学室担当者ノート「戦後における旧軍毒ガス弾等の処理の状況(14.6)」〔13〕
資料内容概要	<p>昭和22～23年頃に、作業船から、旧日本軍の爆弾や爆弾箱らしきものが富津沖に投棄された。富津沖では昭和50年に毒ガスによる被災事件が相次いで発生したことにより、同海域での掃海事業が実施された。その後、発見や被災事例は、昭和55年まで発生している。</p> <p>廃棄・遺棄情報</p> <ul style="list-style-type: none"> ・証言によれば、「証言者は昭和22年～23年頃に、横須賀を出港した作業船から、旧日本軍の爆弾や爆弾箱らしきものを、第三海保南側水域から第二海保及び大貫沖合の水域にかけて投棄したものと思われる」と記載されている〔1〕。 <p>発見・被災・掃海等処理情報</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昭和50年6月19日に、浦賀水道中央4号ライトブイの東20m付近の地点で、漁船が爆弾らしき物体（長さ60cm、径20cm、黒色で両端が円錐状）を引揚げた。物体に危険を感じたので、現場に投棄した。乗組員2名は、物体から流れ出した液体により水疱が発生し通院加療した〔1〕〔2〕〔3〕。 ・昭和50年9月7日に、第二海保灯台から128度2.1マイルの地点で、漁船がイペリット、ルイサイトなど糜爛性ガ

	<p>スと思われる物体（長さ50cm、径約20cmの円筒形。重量20～30kg）を入網したが、悪臭がするのですぐ海中に投棄した。投棄時に飛沫を浴びた乗組員2名に水疱ができ、通院加療した〔1〕〔3〕。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昭和50年10月10日に、漁民1人が手首に被害を受けた〔3〕。 ・昭和50年11月9日から18日までに、東京湾富津沖で旧海軍60キロ爆弾（イペリット）が6個発見され、自衛隊がコンクリート詰めにした後、海中投棄されたと記載されている〔13〕。 ・昭和50年11月10日から17日までに、富津沖で掃海が行われ、イペリット弾2個を揚収し、コンクリート詰めにして再投棄した〔1〕〔4〕。 ・水産庁・環境庁・厚生省・防衛庁・海上保安庁・千葉県の合同掃海作業で〔5〕、昭和50年11月14日に漁船がイペリット弾らしい1発を引揚げたが、2名が炎症を起こした〔6〕〔7〕。また、11月15日に漁船がイペリット弾1発を発見した〔8〕〔9〕。 ・昭和53年7月5日に、漁船がイペリット弾（長さ1m、直径50cm）を引揚げ、引揚げたイペリット弾は海中に落とした〔10〕。 ・昭和55年6月25日に、イペリット弾と思われる物体を発見し、7月10日海上自衛隊に引き渡した〔10〕。 ・昭和55年6月25日に、漁船が引揚げたガス弾1発を横須賀水中処分隊等が処理を実施した〔11〕。 <p>現在の状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現在、富津沖は、小型底引き網漁業、刺し網漁業、まき網漁業、のり養殖漁業等が行われている〔12〕。
--	--